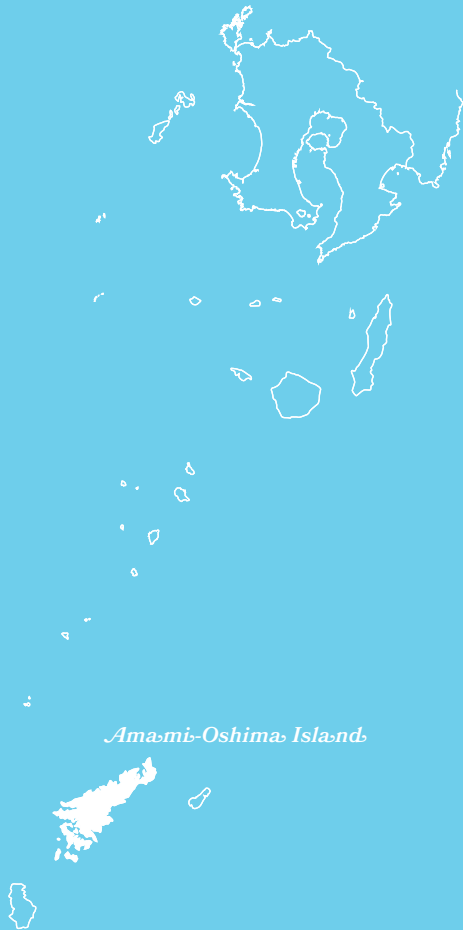


Fieldwork in Amami



Amami-Oshima Island

- 場所 | 奄美大島（鹿児島県）●対象 | 離島医療に関心のある医学部医学科生 ●参加費 | 10,000円（鹿児島空港8/21 7:40発 - 8/23 18:40着までの航空券・交通・宿泊・飲食・レジャー体験費込 50,000円相当）※8/21鹿児島空港集合までの費用は負担いただきます
- 内容 | ケースワーク／病院見学／離島医療講演／地域住民との交流企画／自然文化体験／マングローブカヌー体験／懇親会

申込はこちら



鹿児島県民主医療機関連合会 夏期離島フィールド実行委員会
実行委員長 | 折田 浩（鹿児島生協病院） 事務局 | 有直 秀樹
〒891-0141 鹿児島県鹿児島市谷山中央5-4-12
TEL 099-266-1531 MAIL igakusei@kagoshima-min.jp

Kagoshima MIN-IREN

夏期離島フィールド



Fieldwork in Amami



奄美の人々の想いを聞き 自然に触れ 離島医療を体感しよう

2023.8.21 mon _ 23 wed

Fieldwork in Amami

うがみんしょーらん！
夏期離島フィールドが
4年ぶりに帰ってきた！

うがみんしょーらん（こんにちは）！鹿児島医連は、「地理的な離島はあっても人の生命に離島があってはならない」という言葉のもと、本土復帰間もない奄美大島で医療活動を開始しました。夏期離島フィールドは、鹿児島医連の原点である離島医療を体感できるフィールドワーク企画です。離島の医療や生活背景をケースワーク（在宅患者の訪問調査）を通じて学んだり、奄美の自然文化に触れる体験もできます。きっと参加すれば「将来は離島で働きたい」「離島の人々の生活を支えたい」という想いになるはず。価値観が変わる出会いが待っているはずですよ。

離島の人々の健康と幸せのため 医師としてできることを考える

折田 浩（鹿児島生協病院 内科）
夏期離島フィールド実行委員長



“離島医療”ときいて、みなさんはどのようなイメージを持つでしょうか。いわゆる“島のお医者さん”で、その島には医師は1人だけ…。というシチュエーションを想像する方が多いと思いますが、鹿児島県内の離島では、そういった島は実は少数派です。

鹿児島県内には、本土と橋でつながっていない有人離島が26あり、今回みなさんと体験する奄美大島は、鹿児島島の離島の中で最も人口が多く、約58,000人が暮らしています。一方で、奄美大島に隣接している加計呂麻島は人口約1,000人ですが、全国の離島の中ではまだ多い方です。

奄美大島には、多くの診療科が揃った拠点病院（県立大島病院）を中心として、中小の病院、診療所があり、それぞれの医療機関の得意分野を活かして、島内で医療を完結できるように連携をとっています。今回のフィールドで訪問する奄美

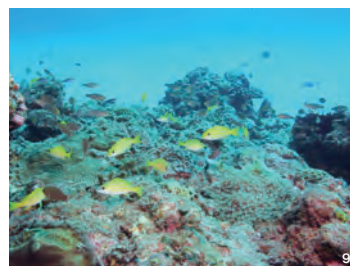
中央病院は、回復期から慢性期の入院・通院・訪問診療に力を入れていて、呼吸器内科・糖尿病内科・腎臓内科といった専門分野で活躍している医師もいます。ですが、大きい島でも行える医療には限界もあります。心血管外科は島内になく、高度の外傷救急や高リスクの周産期医療の対応が島内では難しいため、患者さんを本土に搬送する必要がある場面も多々あります。そのときは、患者さんだけでなく、付き添うご家族の負担も大きくなり、搬送を断念することがあります。一方、台風などの天候不良があれば、そもそも搬送ができず、一刻を争う緊急事態で歯がゆい思いをすることもあります。

加計呂麻島には数年前に新しく診療所ができましたが、以前は奄美大島からの訪問診療や巡回診療で、診察と簡単な検査、薬の処方をするのが精一杯の医療で、夜になると医師が不在になる島でした。

このように、島ごとの“離島医療”があり、島で暮らす人々の健康を守る活動を行っています。今回のフィールドでは、患者さんの環境と生活を知り、その中で健康で幸せに暮らすための知恵を出し合って学びを深めたいと思います。少しでも興味をもっていただけたら、気軽に応募してくださいね！



折田 浩（おりた・ひろし）
鹿児島県生まれ。鹿児島大学卒。2014年鹿児島生協病院入職。2016年から2022年4月まで奄美中央病院、同年5月から鹿児島生協病院で勤務。現在は研修医の導入期研修の指導にも携わっている。2019年度の夏期離島フィールドでは現地事務局の実行委員長として参加。



奄美の人々の想いを訊き 自然に触れる夏 ____ 写真で振り返る 2017-2019

写真1 <地域住民との交流企画>では、住民との対話や交流、健康チェックの一環として参加者による血圧測定を実施しました。血圧測定の仕方については事前に学習します。

2 こちらも<地域住民との交流企画>の様子。参加者による学生講演では、熱中症対策などをテーマに事前に学んだ知識をもとに、できるだけわかりやすく説明します。一般の方に難しい医療の知識をわかりやすく伝える練習にもなりそうです。3 <ケースワーク>は患者さんのご自宅を訪問して、生活の様子を実際に見せていただいたり、暮らしの中の困りごとを伺ったりする活動です。奄美の人々の想いに寄り添い、医療従事者としてできることはないかを考える機会となりました。

4 5 6 島全体が観光スポットともいえる奄美。<自然文化体験>では、海でのフリータイムや、博物館見学、鶏飯などの郷土料理、マングローブカヌーなども体験し、離島ならではの非日常を楽しみました。7 8 9 “離島の中の離島”加計呂麻島へ、海上タクシーに乗って訪問しました。10 <医療講演>では、奄美中央病院の医師から離島医療のやりがいや課題について学び、参加者はケースワークで学んだことをグループごとにまとめて、奄美中央病院の職員に発表しました。グループのメンバーと協力してアウトプットすることで、より参加者全員で学びを共有し深めることができます。11 12 <懇親会>では、参加者や実行委員同士はもちろん、現地の医師や他職種スタッフとも楽しく交流しました。

“医学と医療の違い”がそこに 夏期離島フィールドに参加して

下西 颯
(鹿児島生協病院 初期研修医)



下西 颯 (しもにし・はやて)
宮崎県生まれ。鹿児島大学卒、2022年鹿児島生協病院入職。現在は初期研修医2年目として、各診療科ローテーション研修中。学生時代はウィンドサーフィン部に所属。夏期離島フィールドは2017年度に続き2018年度もリピーター参加し、今回も実行委員として参加予定。

入学して臨床の授業が始まる前、なんだか思い描いていた医学生生活となんとなく違う気がしていました。「自分がやりたかったこととは違うような…講義室で学んでいることって、将来役に立つのかなあ」と考えていた時期がちょうどその頃でした。先輩たちや鹿児島生協病院の職員さんの誘いもあって、大学2年生の時に地域での医師のあり方を学ぶチャンスだと思い、この夏期離島フィールドに参加しました。

“医学と医療の違い”がそこにはあり、自分が求めていた答えに出会えた気がしました。夏期離島フィールドでは訪問診療を行い、実際に患者さんのご自宅に伺うことで患者さんの暮らす環境を見ることができ、直面する問題点をリアルに想像することができました。診察して薬を処方する、その先のこと、今後の患者さんの人生まで医療者は考える必要があるのでと感じました。また、島では医療過疎が現実として存在し、病院にかかることへのハードルが高いと聞いていましたが、「こういうところまで医療を提供しているんだ」と驚きを感じたことを覚えています。地域の熱い想いが紡いできた医療を目の当たりにし、医学・医療を学ぶモチベーションにつながりました。

そしてなにより、医学生の仲間たちと非日常的なフィールドで学び、自然の中で遊んだ記憶は一生の財産になりました。学生時代最高の夏をありがとうございました。今、医師として2年目となりましたが、常に考えるのは“想像力豊かに患者さん目線で医療を提供すること”です。あの夏に触れた熱い想いを、いつまでも忘れずにいたいと振り返る日々です。

企画と仲間と思い出をつくる夏 学生実行委員として



平山 凌大
Ryota Hirayama
鹿児島大学医学部医学科3年

部活はバレーボールと軽音楽部に入っています。バレーボール部ではこの春までキャプテンをしていました。最近は外国の昆虫飼育とポケモンカードにはまっています！対戦相手お待ちしてます(笑)。

夏期離島フィールドは大学に入学して以来、その存在は知っていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催されていませんでした。今回4年ぶりに開催されることになり、一参加者としてとても楽しみな気持ちでいっぱいです。

実はフィールドワークが行われる奄美大島は、幼少期に自分が生まれ育った場所でもあるので、そこで企画に参加できること、久しぶりの奄美大島の食事、観光も、精一杯楽しみたいと思います！



諸見謝 乃亜
Noa Shomija
鹿児島大学医学部医学科2年

はじめまして。出身は沖縄県で、鹿児島県に来て2年目になります。部活はウィンドサーフィン部のマネージャーをしています。今初めて鹿児島県の離島に行く機会ができ、とても嬉しい気持ちです。

大学生になってからヨガ、カメラ、旅行にはまっています。食べることも大好きで日々鹿児島カフェを開拓しています。他にもキャンプ、山登りなど、学生のうちにやってみたいことは山ほどあって、常に好奇心旺盛です！それといった特技はないですが、中学・高校では空手をやっていた。

今回のフィールドワークでは、現地の方との触れ合いや自然体験、離島ならではの文化や食事を特に楽しみにしています。学生企画で自分が実行委員をすることは今までなかったので、うまくできるか不安はありますが、一緒に行くみなさんと仲良くなって、大学生活のいい思い出づくりができればいいなと思います。楽しんでいきましょう！